

■黒潮盃(SII)アラカルト(過去全 50 回の分析)

※第 1 回(昭和 42 年)から第 35 回(平成 13 年)までは大井ダ 1700m で実施
※第 36 回(平成 14 年)は大井ダ 1690m で実施
※第 37 回(平成 15 年)は大井ダ 1790m で実施
※第 38 回(平成 16 年)からは大井ダ 1800m で実施
※第 37 回(平成 15 年)は東日本地区交流競走として実施
※第 38 回(平成 16 年)からは地方競馬全国交流競走として実施
※第 1 回(昭和 42 年)から第 32 回(平成 10 年)までは 4 月に実施
※第 33 回(平成 11 年)からは 8 月に実施
※記録は平成 29 年 7 月 26 日時点

■単勝 1 番人気馬の 3 着内率は 80% !

単勝 1 番人気馬は 24 勝、2 着 8 回、3 着 8 回で、勝率が 48.0%、連対率が 64.0%、3 着内率が 80.0% と、非常に優秀な好走率をマークしている。なお、単勝 2 番人気馬は 7 勝、2 着 8 回、3 着 10 回で、勝率が 14.0%、連対率が 30.0%、3 着内率が 50.0% だった。

■7 割近い確率で単勝 3 番人気以内の馬が勝利

過去 50 回のうち 34 回は、単勝 3 番人気以内の馬が勝利を収めた。なお、単勝 3 番人気以内の馬によるワンツーフイニッシュ決着は 14 回、単勝 3 番人気以内の馬によるワンツースリーフィニッシュ決着は 4 回ある。

■牝馬は 5 勝、外国産馬は優勝例なし

牝馬は第 25 回のカールホワイト、第 26 回のカシワズプリンセス、第 43 回のツクシヒメ、第 46 回のアスカリーブル、第 50 回のミスミランダート、これまでに 5 頭が優勝を果たしている。なお、外国産馬は第 37 回でナイキゲルマンが 2 着となったものの、まだ優勝例はない。TCK、かつ牝馬限定を除く重賞で外国産馬の優勝例がないのはこのレースだけだ。

■騎手別の歴代最多勝記録は「7」

騎手別の勝利数を見ると、7 勝の的場文男騎手が単独トップである。なお、2 位は 5 勝の高橋三郎騎手だが、他に 3 勝以上をマークしている騎手はいない。

■調教師別の歴代最多勝記録は「3」

調教師別の勝利数を見ると、秋谷元次調教師、岡部猛調教師、そして昨年(2023 年)の第 50 回を制した佐藤賢二調教師が 3 勝でトップタイとなっている。

■馬番別勝利数は 12 勝の 3 番が断然のトップ

枠番別勝利数を見ると、9 勝の 2 枠と 3 枠がトップタイとなっている。ちなみに、1 枠、6 枠、7 枠、8 枠が各 6 勝で 3 位タイ、4 枠と 5 枠が各 4 勝で 7 位タイだ。また、馬番別勝利数を見ると、12 勝の 3 番が単独トップ。2 位の 2 番(7 勝)に大きな差をつけている。なお、16 番だけは未だ優勝例がない。

<伊吹雅也>